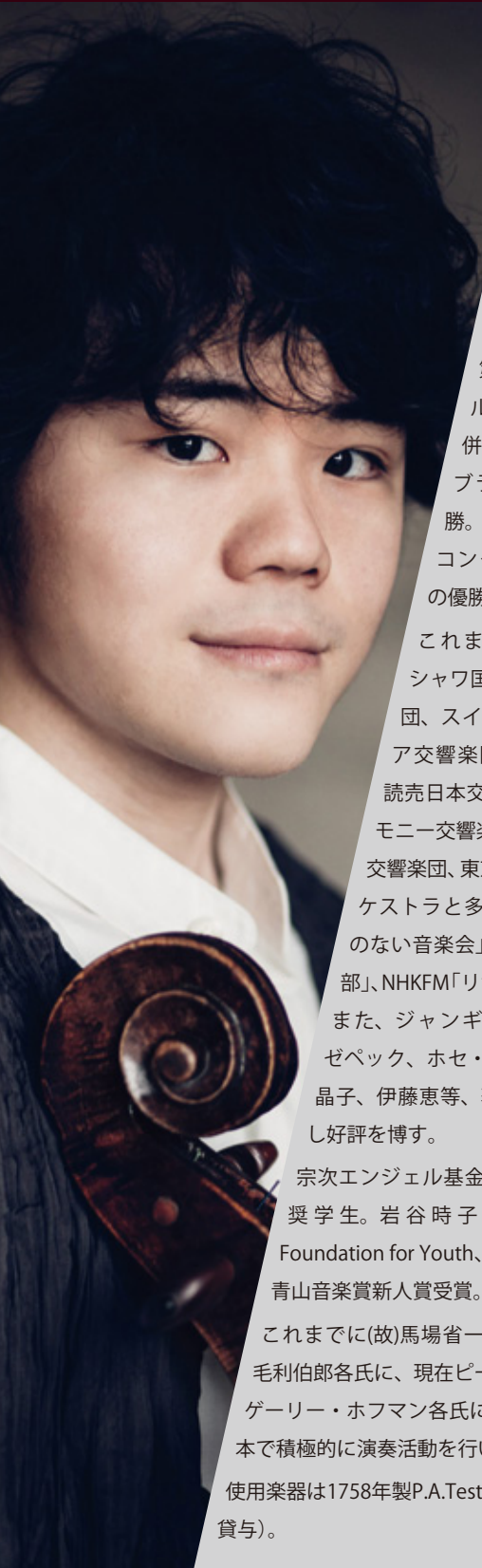


ジュネーヴ国際コンクール 2021 チェロ部門優勝！世界に誇る上野通明の凱旋リサイタル

世界最高峰コンクールのひとつ、ジュネーヴ国際コンクール 2021 で、日本人チェリスト・上野通明が優勝したニュースは、NHKはじめメディアが一斉に報道したことで、ここ日本でも大きく話題になったのは記憶に新しいところだろう。ジュネーヴ・コンクールはバロックから現代音楽、リサイタルから協奏曲まで課題に含まれ、第1位を出さないことも多い。同年に行われたオーボエ部門では第1位どころか第2位も空位だったことを見ても、どれだけこのコンクールが厳しいものが、わかるだろう。

しかしながら、美しさまで感じられるほどの楽器との一体感から生まれる、まるで目に見えるかのような自然なフレーズング、モダンでありながら奇をてらうことのない絶妙なセンス、そして当たり前のように備わった規格外の超絶技巧…そのすべてを持ち合わせた上野通明は、この最難関コンクールで優勝を果たした。紛れもない、快挙である。

そのコンクールでの素晴らしい演奏は配信もされているが、その動画を見れば見るほど、やはり生演奏が聴きたくなる。今回、こちらも実力派の阪田知樹との最高のデュオが実現し、あの演奏に実際に触れられる喜びは、何にも代えがたい。



上野 通明(チェロ)

Michiaki Ueno
cello

2009年若い音楽家のためのチャイコフスキー国際音楽コンクールに13歳で日本人初の優勝。翌2010年ルーマニア国際音楽コンクール最年少第1位、ルーマニア大使館賞、ルーマニアラジオ文化局賞を併せて受賞、2014年ヨハネス・ブラームス国際コンクール優勝。2021年ジュネーヴ国際音楽コンクールチェロ部門日本人初の優勝、併せて3つの特別賞受賞。これまでにソリストとしてワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団、スイスロマンダ管弦楽団、ロシア交響楽団、ジリナ室内管弦楽団、読売日本交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団等、国内外のオーケストラと多数共演。テレビ朝日「題名のない音楽会」、NHKBS「クラシック倶楽部」、NHKFM「リサイタル・ノヴァ」等に出演。また、ジャンギャン・ケラス、ダニエル・ゼベック、ホセ・ガジャルド、堤剛、諏訪内晶子、伊藤恵等、著名なアーティストと共演し好評を博す。

宗次エンジェル基金、江副記念リクルート財団奨学生。岩谷時子音楽文化振興財団より Foundation for Youth、岩谷時子奨励賞、京都青山音楽賞新人賞受賞。

これまでに(故)馬場省一、イニアキ・エチェパレ、毛利伯郎各氏に、現在ピーター・ウィスペルウェイ、ゲーリー・ホフマン各氏に師事。主にヨーロッパと日本で積極的に演奏活動を行い、更なる研鑽を積む。

使用楽器は1758年製P.A.Testore (宗次コレクションより貸与)。

阪田 知樹(ピアノ)

Tomoki Sakata
piano

2021年エリザベート王妃国際音楽コンクールピアノ部門第4位入賞。

2016年フランス・リスト国際ピアノコンクール(ハンガリー・ブダペスト)第1位、6つの特別賞。

第14回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールにて弱冠19歳で最年少入賞。

ピティナ・ピアノコンペティション特級グランプリ、聴衆賞等5つの特別賞、クリーヴランド国際ピアノコンクールにてモーツァルト演奏における特別賞、キッシンジャー国際ピアノオリンピックではベートーヴェンの演奏を評価され、日本人初となる第1位及び聴衆賞。

国内はもとより、世界各地20カ国で演奏を重ね、国際音楽祭への出演多数。クレムリン音楽祭では、オール・リスト・プログラムによるリサイタルをニコライ・ペトロフ氏が「世界一のリスト」と絶賛。

2015年CDデビュー、2020年3月、世界初録音を含む意欲的な編曲作品アルバムをリリース。内外でのテレビ・ラジオ等メディア出演も多い。

東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校、及び同大学を経て、ハノーファー音楽演劇大学にて学士、修士首席修了、現在同大学院ソリスト課程に在籍。世界的ピアニストを輩出し続ける「コモ湖国際ピアノアカデミー」の最年少生徒として認められて以来、イタリアでも研鑽を積む。パウル・バドゥラ＝スコダ氏に10年に亘り師事。

2017年横浜文化賞文化・芸術奨励賞受賞。

